

表面硬度HV3000、 厚さ0.2 μ mの表面処理



株式会社ケンテック

熱処理技術と表面処理技術で 硬さと薄さに挑戦

熱処理と表面処理、この両方ができるのがケンテックの強みだ。親会社であるファインテックは熱処理の企業として昭和61年に創業、当時の最先端技術だった真空熱処理で注目を集めたが、10年後には価格競争の渦に巻き込まれた。その時、現在のケンテック社長川端健一氏がセラミックコーティングと出会い、独立することになる。

同社の「ファインコーティング」は、セラミックの表面コーティング法で、独自開発の真空拡散法を導入、金型等の表面に炭化バナジウムの膜を付けることで通常の焼入れの4～5倍の硬い膜の形成が可能になる。表面硬度はHV3000以上となり、金型の耐磨耗性の向上に貢献している。また、前工程の熱処理から対応できるため、歪みや変寸を極小化できるのも同社の強みだろう。

「熱処理と表面処理の両方をする

には、材料の知識が必要になります。それぞれのバランスが悪いと、せっかくの素材の良さを引き出すことができないのです」と語る川端社長。その言葉どおり、熱処理、表面処理を共にこなせる会社は大阪では少ない。取引先は500社にのぼるが、中でも大手自動車関連会社からの受注は40%を占めている。

0.2 μ mの オーダーにも対応

表面処理だけの知識では対応できないことが多いという加工業界にあって、ケンテックでは、熱処理の知識や技術が揃っていることから、難易度の高い成果を求められるケースが増えてきた。

研究開発にも前向きで、平成16年度に中小企業ベンチャー挑戦支援事業（経済産業省）の補助金を受け、超硬合金製マイクロ金型へのナノコーティング研究に取り組み、「ファインコーティングナノ」の開発に成功。平成18年度には戦略的基礎技術高度化支援事業に選ばれ、龍谷大学と連携して熱処理と表面処理の融合技術の研究開発に力を入れている。従来の8～10 μ mというオーダーに加え、最近では精密部品や刃物等の処理加工に対応するため0.2 μ mまで可能にした。

「部品の小型化も予測されますが、今後も摩擦係数を下げる表面処理を実現していきたい」と新技術にかける川端社長の思いは熱い。依頼に応えるだけでなく、現場回りをしながら顧客のニーズを拾い上げる努力

を継続。プレスカッターやローラーの完成品の販売にも取り組んでいる。材料の選定から加工、表面処理まで一貫してできるため、コストダウンや完成度を高める等のメリットを打ち出せるという。同社の製品は摩擦磨耗が少ないため、耐久性があるのが特長だ。採用した企業では「刃物の使用枚数が減った」等、その評価は高い。

平成19年には真空油焼入加工を行う東大阪工場を稼働し、ますます発展を続けている。

株式会社ケンテック

住所／〒574-0052
大阪府大東市新田北町1-5
設立／平成11年2月
資本金／300万円
従業員／11名（平成21年1月現在）
TEL／072-874-6662
FAX／072-875-2705

Company Profile



川端 健一さん
代表取締役

主な事業内容

精密部品・金型
等の表面処理・
熱処理 等

ISO 9001

<http://www.kentech.co.jp/>